



## 笠原 賢二

一般社団法人東北経済連合会 副会長

## 私たちが後藤新平に繋がる不思議な縁と役割を考えて

昨年から、新型コロナに振り回されている状態が続いています。

顧みますと昭和二十五年ごろ - 私の小学校時代 - 仙台市でも毎年、赤痢・疫病・大腸菌などの病気で友人等が亡くなっていました。学校では、DDTを頭から掛けられ、昼食は脱脂粉乳とスカスカのコッペパンの給食でした。臍げながら生死を感じることもありましたが、それでも鼻水を流しながら、缶蹴り・野球など子供たちのルールで遊んでいました。あまり悲壮感は感じませんでした。

今も、細菌・ウイルスが飛び交っています。門外漢の私には正しく理解できていませんが先人達の中に既にこのような分野で貢献されてきた方々が沢山いらっしゃいます。その中で福島県に所縁のある野口英世、吉田富三、後藤新平などの名前が出て参ります。

後藤新平、岩手県水沢生まれ、明治六年から約四年間、須賀川医学校(現在公立岩瀬病院)在学、卒業、公衆衛生学を学ぶ。台湾民政長官として台北市都市造りなど台湾のインフラを実現、満州鉄道総裁として鉄道敷設、病院建設などなど。明治、大正、昭和と大きな役割を果たした方です。

平成十六年、私たち須賀川地区経営者協会の海外研修で、会員山本電気の台南工場を視察した時、現地の企業「奇美実業」(その当時ABS樹脂の世界トップメーカー)を見学することが出来ました。その時、許文龍董事長にお会いし、私たちが後藤新平の学んだ街から来たことを知ると、約1時間の講話や美術館の見学など大歓迎を受けました。後藤新平を尊敬し、その後も日本に学ぶところが沢山ある。また、これからも対中国でも手を取り合っていきたいとの趣旨でした。改めて先人達の功績が後々の私たちにも残されている事を感じる出来事でした。

東北では、東日本大震災、台風被害と未だ復興途上の状況ですが、東経連が掲げている「わきたつ東北」は今後の指針として非常に重要です。海輪会長のもと産学官金の関係を一層深化させて行きたいものです。事業内容は諸般の事情で変更されることもあるでしょうが、その方向性を変えずに各々の立場で一歩でも進みましょう。一人ではなく仲間が居ることを信じ、またこの地域の発展が日本に、もしかして世界にも役立つと考えたい。

今年がそのような一里塚になる事を強く願っています。

(福島県経営者協会連合会 会長・かさほら けんじ)